

2020年3月期第2四半期 決算説明資料



2019年11月27日

株式会社NEW ART HOLDINGS



証券コード:7638

1. 2020年3月期 第2四半期 決算概要
2. 2020年3月期 連結業績予想及びその進捗
3. 2020年3月期 第2四半期 トピックス及び
第3四半期以降の取り組み

1. 2020年3月期 第2四半期 決算概要

2. 2020年3月期 連結業績予想及びその進捗

3. 2020年3月期 第2四半期 トピックス及び
第3四半期以降の取り組み

(1)決算ハイライト

1

2020年3月期 第2四半期 連結業績
売上高 9,634百万円 営業利益 1,917百万円
⇒売上、営業利益とも過去最高を更新

2

主力のブライダルジュエリー事業が好調持続
⇒売上、セグメント利益(営業利益)とも過去最高を更新
全身美容事業も大幅な利益改善
⇒セグメント利益(営業利益)が過去最高を更新

3

通期連結業績予想に対し、
売上高は52.3%、営業利益は69.7%の進捗
⇒通期業績予想は据え置き

(2)2020年3月期 第2四半期 決算概要(連結) new art

売上高 9,634百万円 (前年同期比 +1,620百万円 +20.2%)

営業利益 1,917百万円 (前年同期比+ 1,217百万円 +174.2%)

売上高

主力のブライダルジュエリー事業が四半期ベース、半期ベースで過去最高の売上を更新。

以下の取組施策によりブランドイメージが向上し、お客さまから高い評価をいただけたものと考えております。

⇒テレビCMやWEB広告等による集客の成功、各種イベントやフェアの開催、映画やドラマへの積極的な協力等が奏功し、来店客が増加基調で推移。

⇒販売スタッフの能力向上、店舗管理の改善。

営業利益

主力のブライダルジュエリー事業の好調持続、全身美容事業の利益大幅改善。

⇒全身美容事業における利益改善への諸施策が奏効。

(WEBマーケティング、新商品・新サービス、顧客アプローチ、化粧品事業)

(3)2020年3月期 第2四半期 業績(連結)

〔単位:百万円〕

	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	増減	増減率
売上高	8,014	9,634	1,620	20.2%
売上原価	3,285	3,227	△57	△1.7%
売上総利益	4,729	6,406	1,677	37.2%
販売管理費	4,029	4,489	459	11.4%
広告宣伝費	1,142	1,197	55	4.8%
給与手当	866	908	42	4.8%
営業利益	699	1,917	1,217	174.2%
経常利益	706	1,855	1,148	162.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	375	1,000	625	166.5%
営業利益率	8.7%	19.8%	11.1pt	—

(4)セグメント別業績

〔単位:百万円〕

		2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	増減	増減率
ブライダル ジュエリー 事業	売上高	5,470	7,682	2,212	40.4%
	セグメント利益	1,015	2,148	1,133	111.6%
全身美容 事業	売上高	1,384	1,588	204	14.7%
	セグメント利益	△31	182	213	—
アート 事業	売上高	858	269	△589	△68.6%
	セグメント利益	△57	△16	41	—
その他 事業	売上高	301	104	△197	△65.4%
	セグメント利益	62	△28	△90	—
調整額 ※2	売上高	0	△11	△11	—
	セグメント利益	△289	△368	△79	—

※1 各セグメントの業績数値は、セグメント間の内部売上高または振替高を調整前の金額で記載しています。 ※2 セグメント利益又は損失の調整額は全社費用を計上。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。 ※3 セグメント損失は△で記載しています。

(5)貸借対照表(連結)の概要

〔単位:百万円〕

	2019年3月期	2020年3月期 第2四半期	増減	変動要因
流動資産	11,379	13,083	1,704	◆流動資産 ・現預金 +1,972 ・受取手形及び売掛 △651 ・商品及び製品 +422
固定資産	3,911	3,730	△180	◆固定資産 ・有形固定資産 △88 ・繰延税金資産 △33
資産合計	15,290	16,814	1,523	
流動負債	6,945	8,129	1,183	◆流動負債 ・短期借入金 +803 ・未払金及び未払費 +141 ・前受金 +530
固定負債	870	826	△44	◆固定負債 ・長期借入金 △31
負債合計	7,816	8,955	1,139	
純資産	7,474	7,858	384	◆純資産 ・当期純利益 +1,000 ・配当金支払による 利益剰余金 △325 ・自己株式 △317
負債及び純資産 合計	15,290	16,814	1,523	

【主要財務指標】

流動比率 160.9%、固定比率47.5%、自己資本比率 46.7%

(6) キャッシュ・フロー(連結)の概要

〔単位:百万円〕

	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期		要 因
			増減	
営業活動による キャッシュ・フロー	509	2,106	1,597	(営業) 税金等調整前四半期純利益 +1,758
投資活動による キャッシュ・フロー	△147	△95	52	売掛債権減少 +641 前受金増加 +532
財務活動による キャッシュ・フロー	△322	△36	286	棚卸資産増加 △501 (投資) 有形固定資産取得 △131
現金および現金同等物 に係る換算差額	2	△2	△5	関係会社株式の取得 △44 有形固定資産の売却 +39
現金および現金同等物 の増減額	42	1,972	1,931	(財務) 長期借入金、短期借入金の 返済 △1,461
現金および現金同等物 の期首残高	1,282	2,002	720	自己株式の取得 △317 配当金支払 △321
現金および現金同等物 の四半期末残高	1,324	3,975	2,650	長期借入金、短期借入金に よる調達 +2,080

1. 2020年3月期 第1四半期 決算概要

2. 2020年3月期 連結業績予想及びその進捗

3. 2020年3月期 第1四半期トピックス及び 第2四半期以降の取り組み

(1) 第2四半期連結業績予想と実績との差異

第2四半期連結業績予想に対し
売上高は7.0%、営業利益53.4%の上振れ

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益 (注)
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A) (2019年5月7日発表)	9,000	1,250	1,230	800	49.09
実績値(B)	9,634	1,917	1,855	1,000	62.12
増減額(B-A)	634	667	625	200	-
増減率(%)	7.0%	53.4%	50.9%	25.0%	-
ご参考:前期(2019年3月期) 第2四半期実績	8,014	699	706	375	23.04

(注)当社は2019年10月1日を効力発生日として普通株式20株につき1株の割合をもって株式併合を実施いたしました。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結業績予想及びその進捗

連結業績に対し、概ね順調に推移
売上高は52.3%、営業利益は69.7%の進捗

〔単位：百万円〕

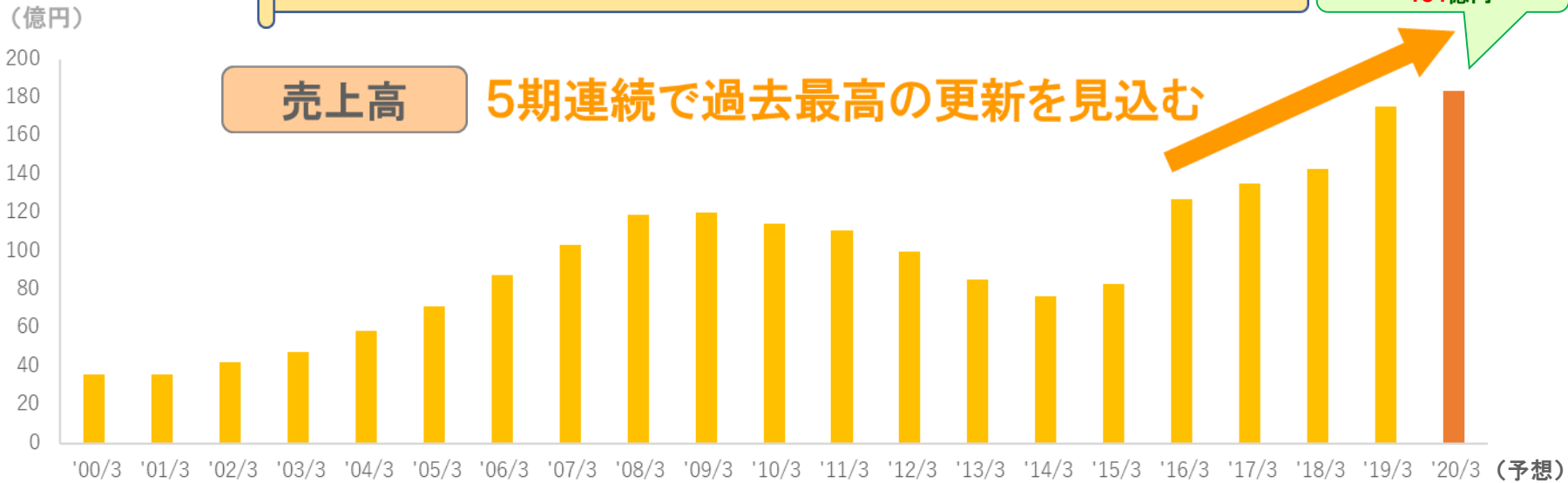
	2020年3月期(連結)		
	第2四半期 累計実績	通期 業績予想	進捗率
売上高	9,634	18,400	52.3%
営業利益	1,917	2,750	69.7%
経常利益	1,855	2,710	68.4%
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益	1,000	1,770	56.4%

通期の業績予想につきましては、現時点では、不確定要素もあるため、前回予想を据え置いております。今後修正が必要となった場合には、速やかにお知らせいたします。

(3)2020年3月期 連結業績予想

売上高／営業利益(連結)の長期トレンド

2020年3月期 業績予想
184億円



(4)株主還元

[基本方針]

- ・将来の事業規模拡大に不可欠な成長投資を優先し、株主利益及び企業価値の最大化に努める
- ・株主還元については、業績向上による株価上昇と剰余金の配当等によって総合的に実現していく。自己株式取得は、資本効率の向上に資する株主還元策として、機動的に実施していく。

2019年11月11日
 期末配当予想を修正（増配）
 しました。

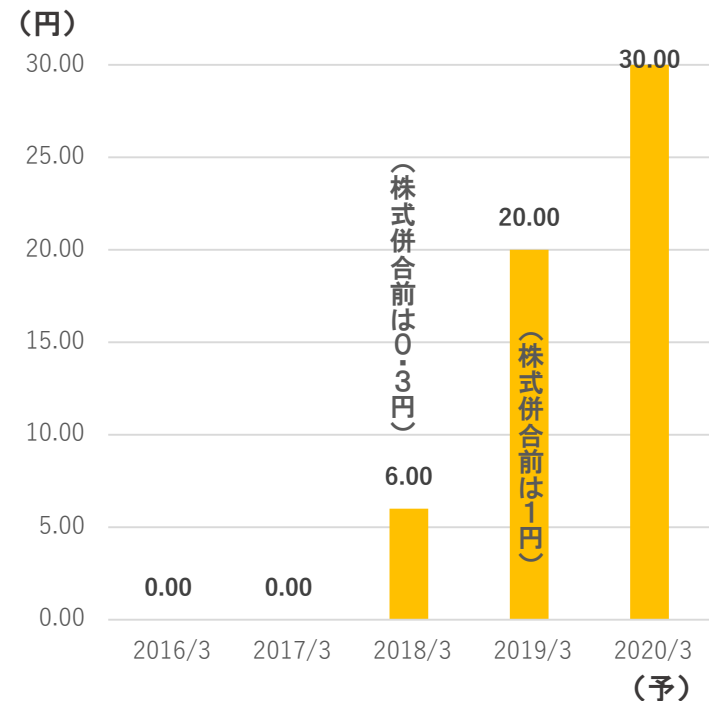
期末配当金 自己株式の取得

期末配当金	自己株式の取得
2019年3月期 1円	—
2020年3月期 20円 ⇒ 30円 (予定) ※1	10億円(上限) ※2

※1 2019年10月1日を効力発生日として20株につき1株の割合をもって株式併合を実施しましたので、2020年3月期の一株当たり期末配当金は当該株式併合後の水準で記載しています。

※2 取得期間：2019年5月8日～2020年5月7日。
 発行済株式総数(自己株式除く)に対する割合：11.35%(上限)
 2019年10月末時点での進捗率 38.18% (金額ベース)

1株当たり配当金の推移
 (株式併合後の水準で比較)



1. 2020年3月期 第2四半期 決算概要

2. 2020年3月期 連結業績予想及びその進捗

3. 2020年3月期 第2四半期トピックス及び
第3四半期以降の取り組み

(1)ブライダルジュエリー事業①



美(art)と健康に奉仕する企業グループ



収益性に加えて、売上規模でも
「ブライダルジュエリー業界 No.1」目指し、
さらなるブランド価値の向上へ

国内展開

集客⇒TVドラマ、映画等への積極的な協力、広告宣伝レベルアップ
体制整備⇒接客、応対力のブラッシュアップ(人材教育)
お客さまに常に選んでいただけるブランドへ

カット技術の頂点を極めた「EXELCO」

「アイディアル・ラウンド・ブリリアント・カット」の発表(1919年)から
今年が100年目。



海外展開

台湾を中心とするアジアへの積極的な事業展開。

2019年9月 台湾(台中)、香港、中国(上海)に新店舗をオープン。

展開順調に進展中。

(1)ブライダルジュエリー事業②



美(art)と健康に奉仕する企業グループ



最近の店舗紹介 (国内)



◀新統合店舗▶

銀座ダイヤモンドシライシ ヒルトン福岡シーホーク店
エクセルコ ダイヤモンド ヒルトン福岡シーホーク店
2019年6月 オープン

最近の店舗紹介 (海外)



銀座ダイヤモンドシライシ
新光三越台中中港店
2019年9月 オープン

▲
銀座ダイヤモンドシライシ上海久光店
2019年9月 オープン



▲
銀座ダイヤモンドシライシ
香港 SOGO TST店
2019年9月 オープン

中長期的な売上拡大・利益率向上への成長戦略 ～利益構造改革～

【1】広告費の費用対効果最大化による収益性向上

- 全身美容／健康痩身を切り口とした新サービスリリース
- Webを活用した高速PDCAによる高品質&ローコスト集客
- メディアや広告に依存しない自社集客(アウトメディア等)の強化



【2】リアルとネットを融合したコスト削減&利益創出

- 会員アプリの導入・活用による顧客の見える化とCRM強化
- 店舗業務のデジタルシフトによる顧客サービス向上
- 店舗(営業)とマーケティング情報を繋ぐリアルタイムシステム



(2)全身美容事業②

La
PARLER
—ラ・パルレ—

美(art)と健康に奉仕する企業グループ

 new art

【3】ブランド価値向上=エステティシヤンの育成強化

- ロイヤルカスタマーと口コミ(良い評判)を生み出す人材教育
- 女性が長く活躍できるキャリアアップ制度の導入
- 業界を跨いだプロフェッショナルのナレッジ活用



“顧客継続こそが高い利益を生み出す”



【4】国内海外への新規出店と物販事業展開

- 首都圏の未開拓エリアへの新規出店
- 国内・海外での販売を視野に入れた新商品の開発
- 台湾・上海を起点としたアジア圏への商品販売展開



“利益率の高い商品の外部販売新規事業”



(3)アート事業・その他事業

アート事業 ・絵画の卸売販売および小売販売を展開

主な取扱い品：具体、草間彌生、奈良美智等の日本の現代アート



NEW
ART
LAB

- 従来の概念でのギャラリーやショップを超越
- 新旧作家を問わず、**新しいアートの実験の場**として、作品の発表、販売ができる空間

● 軽井沢ニューアートミュージアムの活動支援



- **アートファンド事業を香港で始動**
子会社ASIA Contemporary Art Investment Fund Limited

その他(スポーツ)事業

「五感に語りかける”美”のパワー」
スポーツ用品を通じて、
《Functional-Art(機能的芸術)》を提供

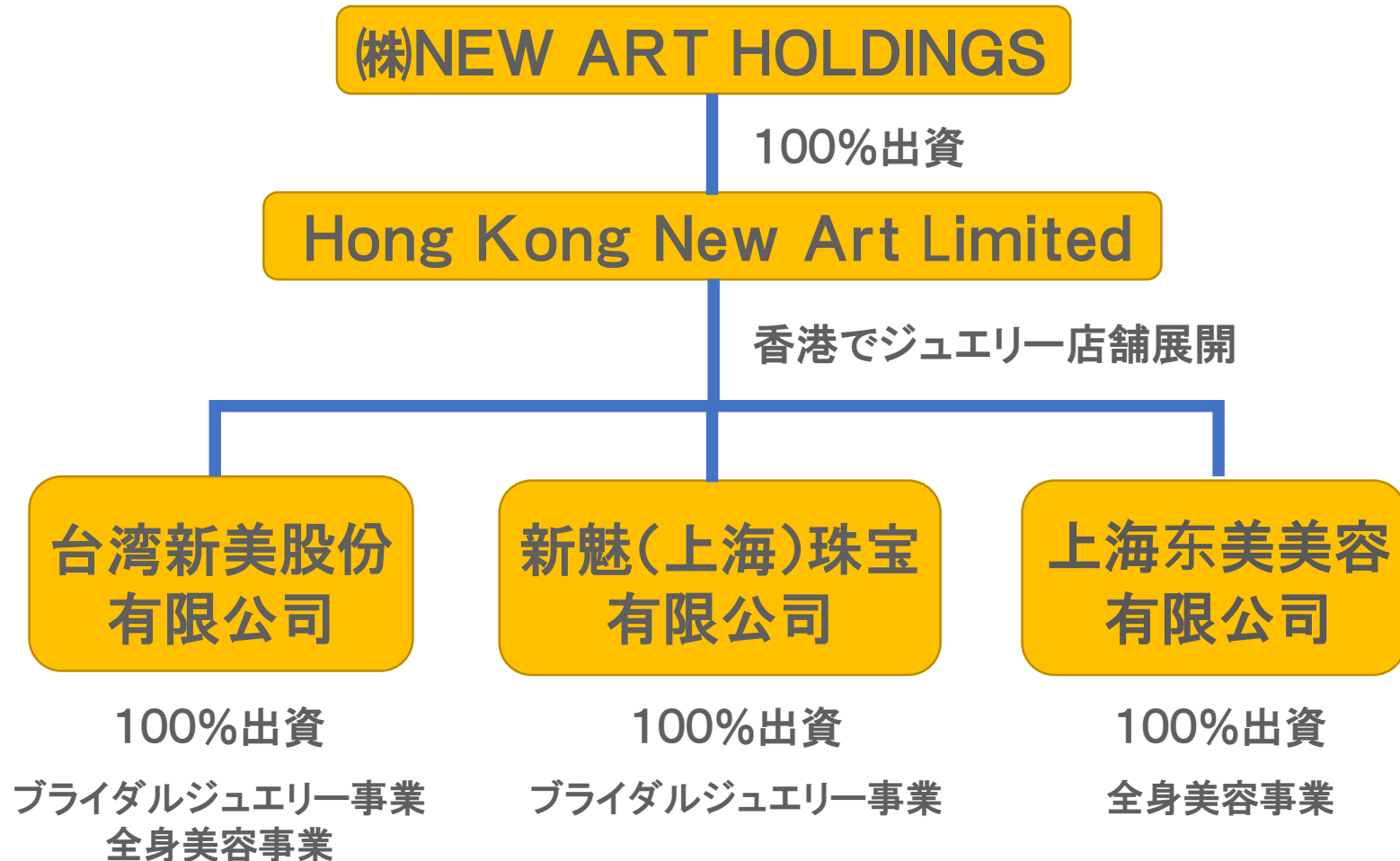
CRAZY



- ・ゴルフクラブ、シャフトの「CRAZY」ブランドを展開
- ・新たなブランドを年内に発表予定
- ・中長期的には他のスポーツ事業、領域への進出を目指す

(4)重点施策 海外事業 1/2

NEW ARTは海外展開を加速し、アジア主要市場で上場を目指します



(4)重点施策 海外事業 2/2

【香港NEW ART上場への道程】

- 1) 2019年度：香港出店(9/8)、台湾台中出店(9/11)、上海移転出店(ジュエリーとエステ複合店舗 9/27)
- 2) 2021年度までに：台湾5店舗⇒13店舗、香港1店舗⇒4店舗、上海1店舗⇒3店舗(ジュエリー)
- 3) 上海エステ店舗を基点に中国国内で化粧品事業を展開
- 4) 2022年3月期連結決算数値(売上高30億円、営業利益4億円)を目標
⇒上場を目指す

【アジア他地域への進出を視野に入れた展開】

タイ、ベトナム、インドネシア、シンガポール

Appendices

新CM (銀座ダイヤモンドシライシ)

恋愛映画の名手、行定勲監督が描くブランドムービー

何気ない日常の中で起こるふたりの輝くプロポーズ、指輪を握りしめてただひたすら彼女の元へ走る彼の強い想いを描いた前作エピソード1「彼は走っている」篇、エピソード1から過去に遡った、ある日のふたりー彼女の気持ちに気づき「本物の指輪を絶対に渡すぞ」と決意を固める彼を描いたエピソード0「紙の指輪」篇。



中期経営計画

(2020年3月期～2022年3月期)

当社グループは2019年3月期において、2018年6月8日に公表した中期経営計画で掲げた売上高及び利益額の数値目標を2年前倒しで達成いたしました。これに伴い、今期(2020年3月期)から2022年3月期までの3か年を対象期間とした新たな中期経営計画(ローリング方式)を策定し、2019年5月7日に公表したものであります。

(1)中期経営計画 数値目標

2022年3月期 売上高195億円、営業利益29.5億円を目指す

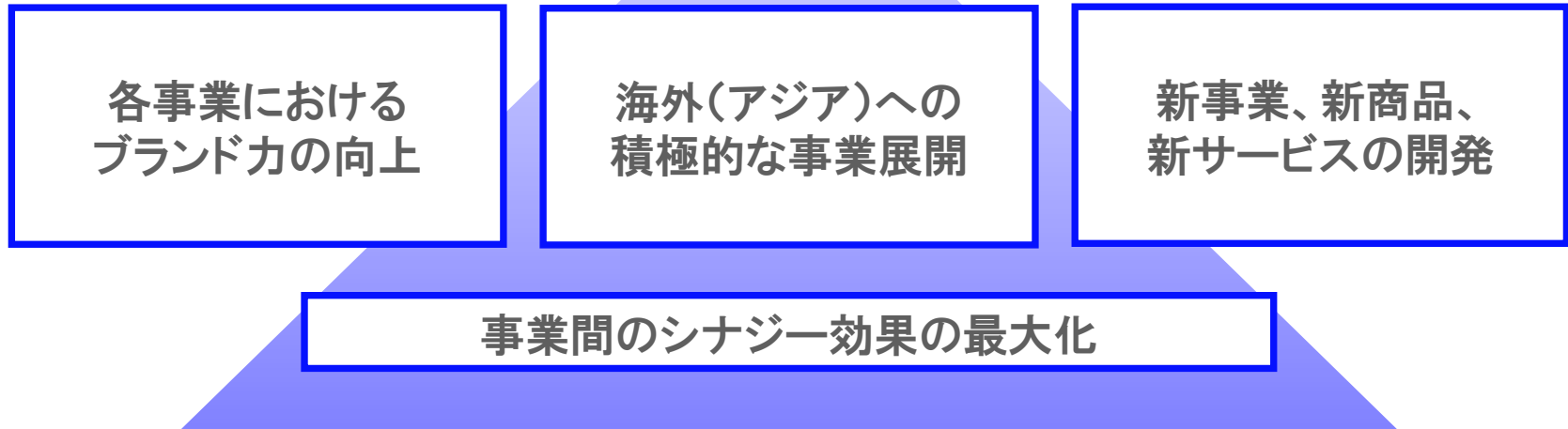
<連結数値目標>

[単位:百万円]

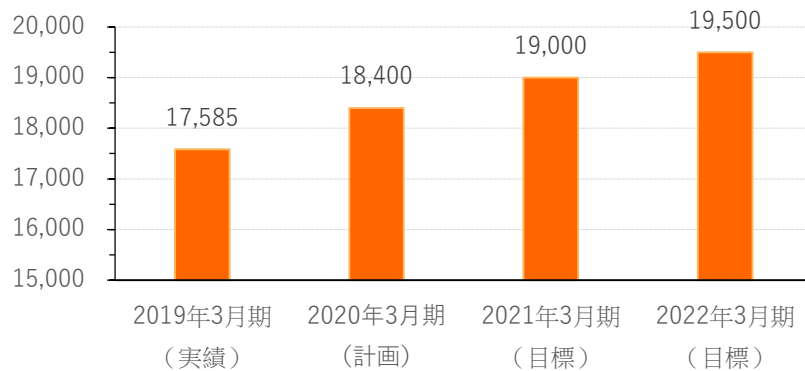
	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
	(実績)	(予想)	(目標)	(目標)
売上高	17,585	18,400	19,000	19,500
営業利益	2,526	2,750	2,850	2,950
経常利益	2,388	2,710	2,800	2,900
当期純利益	916	1,770	1,830	1,890

(2)中期経営計画 概要

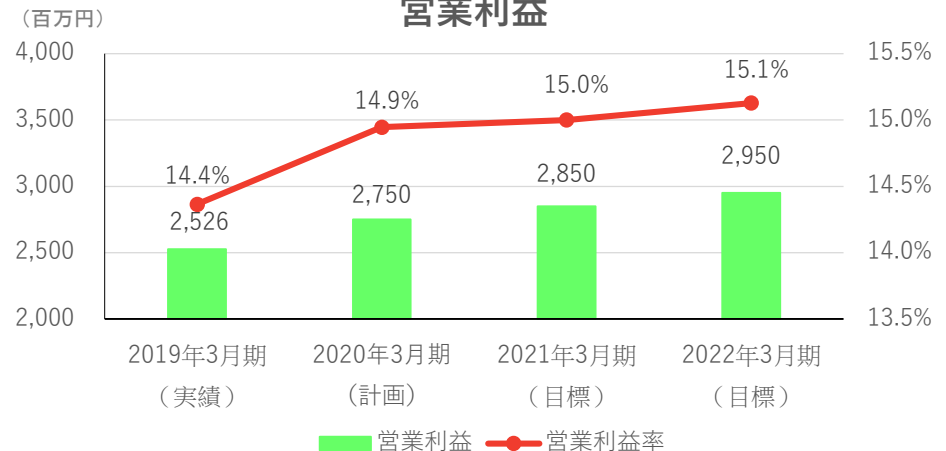
更なる事業の成長と企業価値の最大化



売上高 (百万円)



営業利益





みんなの夢の企業体
NEW ARTは、アートの持てるすべての力で
あなたを美と健康と幸せに導きます

IR情報に関するお問い合わせ

株式会社 NEW ART HOLDINGS 経営企画部

Tel. 03-3567-8098 Fax. 03-3567-8092

(注)本資料における業績予想や将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報にもとづき合理的と判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性その他の要因が内包されております。したがって、実際の業績は、見通しと大きく異なる結果となる可能性があります。